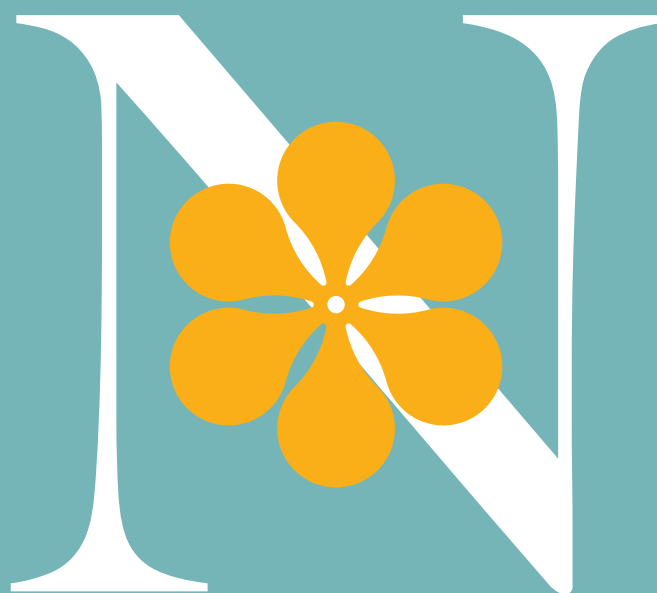


札幌市立大学大学院  
看護学研究科  
博士前期課程

2024  
履修の手引き



札幌市立大学大学院看護学研究科

GRADUATE SCHOOL OF NURSING  
SAPPORO CITY UNIVERSITY

# 札幌市立大学大学院看護学研究科における3つの方針(3ポリシー)

札幌市立大学大学院の教育・研究理念のもと、看護学研究科の各課程において以下のとおり「アドミッション・ポリシー（入学受入の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」の3つの方針を定めています。

## 看護学研究科博士前期課程

### アドミッション・ポリシー

本課程では、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としています。

#### <求める学生像>

本課程が求める学生像は次のとおりです。

- 1 看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的・意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
- 2 柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
- 3 高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

#### <入学者選抜の在り方>

- 1 入学者の選抜は、多様な能力を身につけた学生を求めるため、一般選抜、社会人特別選抜、私費外国人留学生特別選抜で行う。
- 2 筆記試験（専門科目）により専門知識・論述能力、面接（口頭試問を含む）により学修意欲・目的意識・社会性等、英語の資格・検定試験により英語力を測る。

#### <入学者選抜方法>

- 1 入学者の選抜では、筆記試験、面接、英語資格・検定試験の合計得点を算出する。
- 2 志望理由書、研究計画書等の提出書類は、面接の際の参考資料とするとともに、選抜の総合的な判定資料とする。

### カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、本課程に掲げる理念・目的のもと教育・研究活動を展開し、目標とする人材を育成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。

#### <教育課程の編成方針>

- 1 課程制大学院の趣旨に沿い、教育目的を達成するため必要な授業科目を体系化するとともに、組織的に展開する教育課程とする。
- 2 実践看護学分野と看護マネジメント学分野の2つの分野を設け、卓越した実践能力や統合的な調整能力を育む授業科目を配置する。
- 3 段階的・効率的な学修が可能な配当年次を設定し、基礎的知識から各領域に特化した専門的知識までを一貫して修得できる教育課程とする。
- 4 専門看護師（CNS）コースを設け、専門看護師の育成を目的とする授業科目を配置する。
- 5 授業科目を「研究科連携科目」、「専門教育科目」に区分する。

#### <教育内容・方法の実施方針>

- 1 「研究科連携科目」では、高度な専門性を支える広い視野と知識を修得するための講義・演習科目を開講する。「専門教育科目」では、看護専門分野を深く看護を実践していくための基礎から、専門知識・技術を身に付け学生自らが看護学を研究するために必要となる能力・技法を修得するための講義・演習・実習科目を開講する。
- 2 実践看護学分野には、教育・研究の対象として「地域生活看護学領域」「母子看護学領域」「成人看護学領域」「精神看護学領域」「看護技術学領域」の5領域を設け、各ライフサイクル・発達過程における個人や集団を対象とした看護ケアの実践と応用について教育・研究を行う。看護マネジメント学分野には「看護教育・管理学領域」を設け、看護全体をマネジメントし、リーダーシップを発揮できる人材や看護教育に携わる基礎を培う教育学を修めるための教育・研究を行う。
- 3 看護学領域ごとに特論科目と演習科目を配置し、総論から各論へ高度で実践的な専門知識・技術を段階的に修得するための教育を行う。
- 4 学生が研究の成果を修士論文にまとめる「特別研究」、専門看護師（CNS）を目指す者が課題研究論文を作成する「課題研究」においては、指導教員が計画的な研究指導を行う。学生は、自ら研究課題を探索し、研究指導内容をふまえて研究を進める。

#### <学修成果の評価方針>

- 1 講義科目は15時間1単位、演習科目は30時間1単位、実習科目は45時間1単位として単位認定を行う。ただし、研究科連携科目における演習科目は15時間1単位とする。
- 2 修士論文又は課題研究論文は、論文の内容及び最終試験の結果をもとに、所定の論文審査基準により評価する。

### ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、所定の授業科目を履修し、必要単位を修得すると共に当該専攻、分野および領域等の専門性に応じて求められる以下の能力を有し、修士論文等の審査及び試験に合格した者に学位を授与します。

- 1 高度な臨床看護実践を展開し、リーダーシップを発揮する能力
- 2 倫理的判断に基づき行動し、評価する能力
- 3 看護学の将来を展望し、実践に活用可能な研究を遂行する能力
- 4 地域特性を活かし、課題解決を導く能力

# 2024 履修の手引き

札幌市立大学大学院看護学研究科  
博士前期課程

## 《目 次》

### 1 授業スケジュール

1-1 年間スケジュール	4
1-2 修学進行表	5
1-3 研究指導スケジュール	6
1-4 時間割	12

### 2 教育課程

2-1 教育目的	18
2-2 育成する人材像	18
2-3 教育課程の編成の考え方及び特色	20

### 3 履修要領

3-1 授業科目一覧	26
3-2 履修モデル	28
3-3 履修登録について	47

4 修士論文・課題研究論文作成要領	50
-------------------	----

# 1

博士前期課程

## 授業スケジュール

1-1 年間スケジュール .....	4
1-2 修学進行表 .....	5
1-3 研究指導スケジュール .....	6
1-4 時間割 .....	12

# 1 -1 年間スケジュール

---

◆入学式	4月 3日(水)
◆前期ガイダンス	4月 4日(木)
◆前期授業開始	4月 5日(金)
◆前期履修登録期間	4月 5日(金)~12日(金)
◆夏季休業	8月 10日(土)~28日(水)
◆後期ガイダンス	9月 27日(金)
◆後期授業開始	9月 30日(月)
◆履修登録期間	9月 30日(月)~10月 7日(月)
◆冬季休業	12月 25日(水)~ 1月 3日(金)
◆春季休業	3月 1日(土)~31日(月)
◆修了式	3月 19日(水)

---

# 1-2 修学進行表

週数	月	月	火	水	木	金	土	日	全学・看護学部の行事等				
1	4月	1	2	3	入学式	4	前期ガイダンス	5	前期授業開始 履修登録開始	前期ガイダンス(4/4) 前期授業開始(4/5) 健康診断(4/8)			
2		8	N健康診断	9	10	D健康診断	11	(9月修了)博士後期 課程論文予備審査 申請書提出期限	12		履修登録終了	13	14
3		15	16	17	18	19	20	21	22		23	24	
4		22	23	24	25	26	27	28	29		30	31	
5		29	昭和の日	30	1	2	3	憲法記念日	4		みどりの日	5	こどもの日
6	5月	6	振替休日	7	8	9	10	11	12	13	14		
7		13	14	15	16	17	18	19	20	21			
8		20	21	22	23	24	25	26	27	28			
9		27	28	29	30	31							
10	6月	3	4	5	6	(9月修了)論文審査 申請書・博士後期課程 研究計画書審査申 請書提出期限	7	8	9	10	11		
11		10	11	12	13	14	15	オープンキャンパス	16	17	18		
12		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26		
13		24	25	26	27	28	29	30					
14	7月	1	2	3	4	(9月修了)論文提出 期限・博士後期課程 研究計画書提出期限	5	博士後期課程 研究計画書 審査会(～7/31)	6	7	8		
15		8	(9月修了)論文 審査会(～7/26)	9	10	11	12	13	14	15			
16		15	海の日	16	17	18	19	20	D編入学・博士前期 課程推薦入試	21	22		
17		22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
18		29	30	31	1	2	3	4	5	6	7		
19	8月	5	6	7	8	第1回公開発表会 エントリー期限	9	10	夏季休業開始	11	山の日		
20		12	振替休日	13	14	15	第1回公開発表会 発表要旨提出期限	16	17	18	19		
21		19	20	学内研究交流会	21	22	第1回公開発表会	23	24	25	26		
22		26	27	(9月修了)最終 論文提出期限	28	夏季休業終了	29	30	31				
23	9月	2	3	4	5	6	修了判定	7	N 社会人・ 助産学入試	8	9		
24		9	10	11	12	13	14	15	16	17			
25		16	敬老の日	17	18	19	20	21	オープンキャンパス、 大学祭(芸森C)	22	大学祭(芸森C) 秋分の日		
26		23	大学祭(芸森C) 振替休日	24	25	9月修了式	26	27	後期ガイダンス	28	D・N 博士前期 課程入試		
27		30	後期授業開始 履修登録開始	1	2	3	4	5	6	7	8		
28	10月	7	履修登録終了	8	9	10	博士後期課程論文 予備審査申請 書提出期限	11	12	D総合型選抜	13		
29		14	スポーツの日	15	16	17	18	19	20	21			
30		21	22	23	24	25	26	27	28	29			
31		28	29	30	31								
32		11月	4	振替休日	5	6	7	8	9	連携プロジェクト 演習公開発表会	10	11	
33	11		12	13	14	15	16	17	18	19			
34	18		19	20	21	第2回公開発表会 エントリー期限	22	23	勤労感謝の日 D・N学校推薦型選抜・ D社会人特別選抜	24	25		
35	25		26	27	産学官金研究 交流会	28	第2回公開発表会 発表要旨提出期限	29	30	31			
36	12月	2	3	論文審査申請書・博士 後期課程研究計画書 審査申請書提出期限	4	5	第2回公開発表会	6	7	8			
37		9	10	11	12	13	14	15	16	17			
38		16	17	18	19	20	21	22	23	24			
39		23	24	25	冬季休業開始	26	27	28	29	30			
40		30	年末年始休日	31	年末年始休日	1	元日 年末年始休日	2	年末年始休日	3	年末年始休日 冬季休業終了		
41	1月	6	7	論文提出期限	8	9	論文審査会(～ 1/23)・博士後期課程 研究計画書提出期限	10	博士後期課程研究 計画書審査会 (～1/31)	11	12		
42		13	成人の日	14	15	16	17	18	(大学入学共通テスト)	19	(大学入学共通テスト)		
43		20	21	22	23	第3回公開発表会 エントリー期限	24	25	26	27			
44		27	28	29	30	第3回公開発表会 発表要旨提出期限	31						
45	2月	3	4	5	6	第3回公開発表会	7	8	N博士後期 課程入試	9	10		
46		10	11	建国記念の日	12	13	14	15	D博士後期 課程入試	16	17		
47		17	最終論文 提出期限	18	19	20	21	22	23	天皇誕生日	24		
48		24	振替休日	25	D・N 学部一般前期 ・D 留学生入試	26	27	28	修了判定	1	春季休業開始		
49	3月	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
50		10	11	12	13	14	15	16	17	18			
51		17	18	19	修了式	20	春分の日	21	22	23			
52		24	25	26	27	28	29	30	31				
53		31	春季休業終了										

長期休業期間

# 1-3 研究指導スケジュール

## \*\* 修士論文コース(2年) \*\*

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目	5		履修指導 研究課題決定 ・研究指導計画書の作成(以降毎年度)	
	6	研究計画立案	研究計画指導	
		研究計画書作成	研究計画書審査	
		倫理審査申請		倫理審査会審査
		研究遂行	研究指導	
	6			
2年目	8	中間発表	課題指摘	公開発表会開催
	10	修士論文作成	論文作成指導	主査：1名 指導教員以外の研究指導教員 副査：2名 研究指導教員（指導教員も可）
	12			主査・副査決定
	1	修士論文提出		主査・副査論文審査
		最終試験		最終試験 (口頭試問を含む)
	2	研究発表		公開発表会開催
		最終論文提出		可否判定
	3	修了		修了認定（学位授与）

**\*\* 専門看護師コース(2年) \*\***

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目			履修指導 研究課題決定 ・研究指導計画書の作成(以降毎年度)	
	6	研究計画立案・ <u>実習計画立案</u>	研究計画指導・ <u>実習計画指導</u>	
	9	研究遂行・ <u>実習の開始</u> 倫理審査申請	研究指導・ <u>実習指導</u>	倫理審査会審査
	1	<u>実習</u> <u>課題レポート提出</u>	<u>実習指導</u> <u>課題レポートの評価、実習評価</u>	
	5	<u>実習</u> <u>課題レポート提出</u>	<u>実習指導</u> <u>課題レポートの評価、実習評価</u>	
2年目	8	中間発表		公开发表会開催
	9	<u>実習</u> <u>課題レポート提出</u>	課題指摘 <u>実習指導</u> <u>課題レポートの評価、実習評価</u>	
	10	<u>課題研究論文作成</u>	論文作成指導	主査：1名 指導教員以外の研究指導教員 副査：2名 研究指導教員（指導教員も可）
	12			主査・副査決定
	1	<u>課題研究論文提出</u>		主査・副査論文審査
		最終試験		最終試験 (口頭試問を含む)
	2	研究発表 最終論文提出		公开发表会開催 合否判定
3	修了		修了認定（学位授与）	

※斜体ゴシック部分は、専門看護師コース以外との相違点を表す



**\*\* 修士論文コース(3年) \*\***

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目	5		履修指導 研究課題決定 ・研究指導計画書の作成(以降毎年度)	
	12	研究計画立案	研究計画指導	
		研究計画書作成 倫理審査申請	研究計画書審査	倫理審査会審査
		研究遂行	研究指導	
2年目	12	中間発表	課題指摘	公開発表会開催
	4	修士論文作成	論文作成指導	
3年目	12			主査・副査決定 主査・副査論文審査
	1	修士論文提出		主査・副査論文審査
		最終試験		最終試験 (口頭試問を含む)
	2	研究発表 最終論文提出		公開発表会開催 可否判定
	3	修了		修了認定(学位授与)

主査：1名  
指導教員以外の研究指導教員  
副査：2名  
研究指導教員（指導教員も可）

**\*\* 専門看護師コース(3年) \*\***

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目			履修指導	
			研究課題決定	
	6	研究計画・実習計画立案	研究計画指導・実習計画指導 <small>・研究指導計画書の作成(以降毎年度)</small>	
	9	研究遂行・実習の開始 倫理審査申請	研究指導・実習指導	倫理審査会審査
1		実習	実習指導	
		課題レポート提出	課題レポートの評価、実習評価	
2年目	9	実習	実習指導	
		課題レポート提出	課題レポートの評価、実習評価	
	12	中間発表	課題指摘	公開発表会開催
3年目	5	実習	実習指導	
		課題レポート提出	課題レポートの評価、 実習評価	
	8	課題研究論文作成	論文作成指導	
	12			主査・副査決定 主査・副査論文審査
	1	課題研究論文提出		最終試験 (口頭試問を含む)
	2	最終試験		公開発表会開催 合否判定
		研究発表		修了認定(学位授与)
		最終論文提出		
	3	修了		

主査：1名  
指導教員以外の研究指導教員  
副査：2名  
研究指導教員(指導教員も可)

※斜体ゴシック部分は、専門看護師コース以外との相違点を表す

**\*\* 修士論文コース(4年) \*\***

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目	5		履修指導 研究課題決定 ・研究指導計画書の作成(以降毎年度)	
	12	研究計画立案	研究計画指導	
		研究計画書作成 倫理審査申請	研究計画書審査	倫理審査会審査
		研究遂行	研究指導	
2年目	12	中間発表	課題指摘	公開発表会開催
	8	修士論文作成	論文作成指導	
4年目	12	修士論文提出		主査・副査決定 主査・副査論文審査
		最終試験		最終試験 (口頭試問を含む)
	2	研究発表		公開発表会開催
		最終論文提出		可否判定
	3	修了		修了認定(学位授与)

主査：1名  
指導教員以外の研究指導教員  
副査：2名  
研究指導教員(指導教員も可)

**\*\* 専門看護師コース(4年) \*\***

	月	学 生	指導教員	研究科教授会
出願		研究計画書 入学試験	事前相談	
	4	入学 研究分野及び研究指導教員希望		研究分野・指導教員決定
1年目			履修指導	
			研究課題決定	
	6	研究計画・実習計画立案	研究計画指導・実習計画指導 ・研究指導計画書の作成(以降毎年度)	
	9	研究遂行・実習の開始 倫理審査申請	研究指導・実習指導	倫理審査会審査
2年目	1	実習 課題レポート提出	実習指導 課題レポートの評価、実習評価	
	9	実習 課題レポート提出	実習指導 課題レポートの評価、実習評価	
	3年目	5	実習 課題レポート提出	実習指導 課題レポートの評価、実習評価
8		課題研究論文作成	論文作成指導	
12		中間発表	課題指摘	公開発表会開催
4年目	12			主査：1名 指導教員以外の研究指導教員 副査：2名 研究指導教員（指導教員も可）
	1	課題研究論文提出		主査・副査決定 主査・副査論文審査
		最終試験		最終試験 （口頭試問を含む）
	2	研究発表 最終論文提出		公開発表会開催 合否判定
	3	修了		修了認定（学位授与）

※斜体ゴシック部分は、専門看護師コース以外との相違点を表す

# 1-4 時間割

## (1) 1年次

時限	時間	月曜日		火曜日		水曜日	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ～ 10:30						
2	10:40 ～ 12:10						
3	13:10 ～ 14:40						
4	14:50 ～ 16:20	看護理論特論 D401	看護コンサルテーション特論 D402	看護研究法特論 D401	寒冷地生活支援看護学特論 D402 がん看護・緩和ケア特論	看護専門職教育特論 D402 小児看護学特論A	在宅看護学特論C 小児看護学特論E クリティカルケア看護学特論 がん看護学援助特論 精神看護学特論C
5	16:30 ～ 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論A 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論A 地域看護学特論 小児看護学特論B 母性看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論B 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論 D402	家族看護学特論 D402 小児看護学特論C がん薬物療法看護特論 精神看護学特論D	看護倫理学特論 D402	継続教育特論 D402
		在宅看護学特論B 急性期看護学特論					
6	18:10 ～ 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論A 看護技術学特論I 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論A 地域看護学特論 小児看護学特論B 母性看護学特論 慢性期看護学特論 がん看護学特論 精神看護学特論B 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論 D401	寒冷地生活支援看護学特論 D402 小児看護学特論C がん看護・緩和ケア特論	看護専門職教育特論 D402 小児看護学特論A	在宅看護学特論C 小児看護学特論E クリティカルケア看護学特論 がん看護学援助特論 精神看護学特論C
		在宅看護学特論B 急性期看護学特論					
7	19:50 ～ 21:20	看護理論特論 D401	看護コンサルテーション特論 D402	看護管理学特論 D402	家族看護学特論 D402 がん薬物療法看護特論 精神看護学特論D	看護倫理学特論 D402	継続教育特論 D401 臨床哲学特論 D402

- ※ 「特別研究」及び「課題研究」は、指導教員ごとに開講する。
- ※ 開講曜日・時間は週によって変更する場合がある。
- ※ 集中講義の日程は別途、掲示する。

木曜日		金曜日		土曜日	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				コミュニケーション特論 D402	健康福祉政策特論 D402
				国際関係特論 D402	地域経済政策特論 D402
				少子高齢社会特論 D402	ヒューマニティ特論 D402
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習A 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習  老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 小児看護学演習A 母性看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習  急性期病態管理学特論 (後期)			アドバンスト・フィジカルアセ スメント論	連携プロジェクト演習 D401	
		フィジカルアセスメント論 D402			
		病態生理学特論 D401	臨床薬理学特論 D402		がん病態治療特論
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習A 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習  老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 小児看護学演習A 母性看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習  急性期病態管理学特論 (後期)		病態生理学特論 D401	臨床薬理学特論 D402	小児看護学演習B	
		病態生理学特論 D401	臨床薬理学特論 D402		
地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習A 看護技術学演習I 看護教育・看護マネジメント学演習  老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 小児看護学演習A 母性看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習  急性期病態管理学特論 (後期)			アドバンスト・フィジカルアセ スメント論		
		フィジカルアセスメント論 D402			

## (2) 2年次

時 限	時間	月曜日		火曜日		水曜日	
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1	9:00 ～ 10:30						
2	10:40 ～ 12:10						
3	13:10 ～ 14:40						
4	14:50 ～ 16:20					小児看護学特論D	
5	16:30 ～ 18:00	老年看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 慢性期看護学特論 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論		在宅看護学特論D 慢性期精神看護学特論	慢性期精神看護学演習	在宅看護学特論E	
		クリティカルケア看護学演習 I		がん看護・緩和ケア演習 がん薬物療法看護演習		クリティカルケア看護学演習 II	
6	18:10 ～ 19:40	老年看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 慢性期看護学特論 看護技術学特論II 看護教育学特論 看護マネジメント学特論		在宅看護学特論D 慢性期精神看護学特論	慢性期精神看護学演習	小児看護学特論D	
		クリティカルケア看護学演習 I		がん看護・緩和ケア演習 がん薬物療法看護演習		クリティカルケア看護学演習 II	
7	19:50 ～ 21:20					在宅看護学特論E	

- ※ 「特別研究」及び「課題研究」は、指導教員ごとに開講する。
- ※ 開講曜日・時間は週によって変更する場合がある。
- ※ 集中講義の日程は別途、掲示する。

木曜日		金曜日		土曜日	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
				コミュニケーション特論 D402	健康福祉政策特論 D402
				国際関係特論 D402	地域経済政策特論 D402
				少子高齢社会特論 D402	ヒューマニティ特論 D402
老年看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習B 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習					
	急性期病態管理学 特論 (後期)			小児看護学演習B がん看護学演習II	
老年看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習B 看護技術学演習II 看護教育学演習 看護マネジメント学演習					
	急性期病態管理学 特論 (後期)				





# 2

## 博士前期課程 教育課程

2-1 教育目的 .....	18
2-2 育成する人材像 .....	18
2-3 教育課程の編成の考え方及び特色 .....	20

## 看護学研究科博士前期課程

# 2-1 教育目的

札幌市立大学看護学部では「医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し、他職種と連携できる職業人の育成を目指し、少子高齢社会における地域看護の充実、看護職への学習機会の提供などを通じて、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。」(札幌市立大学学則第2条第2項第2号)ことを教育・研究上の目的として、人間性あふれ、地域に貢献する実践的な看護職を育成しているところです。

看護学においては、少子高齢社会における市民の健康指向、医療への関心の高まり、医療制度の変化などを背景に、保健・医療・福祉を取り巻く環境は激変し、看護ケアの重要性がますます認識され、看護職には、より高度の専門性や管理・指導能力が求められてきています。

このため、看護学研究科博士前期課程では、「保健・医療・福祉分野における様々な課題に主体的に取り組む高度な看護実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成を目指し、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。」ことを目的とし、以下の能力を修得することを本課程の特色としています。

### (1) 正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力の修得

少子高齢社会の渦中にあり、多様な価値観を持つ人々に対し、正確性、緻密性及び独創性を兼ね備えた高度な看護実践能力を養います。

### (2) 高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力の修得

人権意識や倫理観が厳格に問われるとともに複雑化する社会において、専門看護分野において柔軟に対応し、高い倫理観を持って自ら分析・判断・行動・評価する能力を養います。

### (3) 他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力の修得

医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力をさらに高め、保健・医療・福祉分野でリーダーシップを発揮できる能力とともに、看護の各専門領域において看護の将来展望を視野に入れた変革・統合・調整・教育能力を養います。

### (4) 積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力の修得

積雪寒冷地においてライフサイクルに応じた健康づくりに関する課題を探求し、課題解決に向けた能力を養います。

# 2-2 育成する人材像

## (1) 人材育成の考え方

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び総合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっています。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有する看護研究者及び看護教育者の果たす役割が大きくなっています。

本課程は、このような社会の要請に応える人材を育成し、ここ札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指しています。

なお、本課程では、2005年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育―国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて―」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むこととしています。

## (2) 育成する人材像

保健・医療・福祉が日々新たな課題を抱える中、様々な人々の健康レベルに対応できる卓越した高度看護実践者、専門化・複雑化及び高度化した看護の質の向上に必須な看護管理者、看護の質を確保する看護技術の開発・評価を担う看護者及び看護の未来を見据えた看護研究者及び看護教育者を育成する必要があります。また、今後は、研究能力を有した看護実践者及び臨床能力を有する研究者・教育者の育成がより一層求められています。

このため、本課程においては、次の能力を備えた人材を育成します。

- ①保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
- ②総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
- ③地域や在宅において健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
- ④看護の未来を創造・開拓する看護研究者・看護教育者の育成
- ⑤看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
- ⑥幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

### (3) 修了後の進路

本課程修了者の進路としては、高度先進医療の実践者としての高度専門職業人、看護管理者、研究者、教育者さらに博士後期課程への進学等が想定されます。

#### ①高度専門職業人

近年の医療・看護の専門分化に伴い、専門性が求められる高度な倫理観や実践力を持った人材が必要とされ、医師、看護師のほか様々な職種が一体となった医療が展開されています。また、少子高齢社会は急速に進行しており、在宅における療養者、要介護者、要支援者は増加の一途を辿っています。

公益社団法人日本看護協会ではこのような看護の専門分化に対応した専門看護師等の制度を設けていますが、現在は首都圏などに偏在している状況にあります。

札幌市内には多くの高度専門医療機関が存在し、北海道における高度先進医療の中核を担っていること、また、今後も少子高齢社会が一層進行していくことが予想されることなどから、保健・医療・福祉施設及び在宅における高度看護実践者などの看護リーダーに対する高い需要があります。

#### ②看護管理者

個人、家族及び市民の保健医療ニーズは増加、多様化しており、それに対応して看護を取り巻く環境は複数多岐にわたり著しく変化し、保健・医療技術は進歩を続けています。このようなニーズに対応するためには、質の高い組織的な看護サービスの提供が求められ、その中核を担う医療機関における看護管理者の役割は、保健医療システムの中で今後ますます重要となっていきます。

#### ③研究者・教育者

看護学には実践性が求められることから、専門職業人として一定の実務経験を経てから大学院へ入学する方が多くいます。また、大学の学部及び大学院における看護学教育においては、大学院で高度の教育技法・研究技法を身に付けた看護職がその教育を担う人材となることが望まれています。専門分野の研究を継続的に行うことによって看護学の専門性が高まり、独自性が発揮できることから、看護学の研究者及び教育者の需要は高くなっています。

このような高度専門職業人、研究者、教育者の看護の専門性をさらに追究・発展させるためには、博士前期課程を経て博士後期課程で研鑽することが望まれます。

#### 【修了後の進路】

- ・保健・医療・福祉施設及び在宅の高度看護実践者
- ・病院・施設等の看護管理者
- ・大学等の看護教育者
- ・看護政策を企画立案できる行政職
- ・研究所や研究センター等の専任研究者
- ・国際保健の分野で活躍する看護職
- ・企業等で技術開発や製品開発に携わる看護研究者
- ・企業等で社員の健康支援に携わる看護実践・管理者
- ・医療・福祉コーディネーター
- ・大学院博士後期課程進学 他

#### (4) 取得できる資格

本課程を修了すると「修士（看護学）」の学位を取得できるほか、学生が選択した分野、領域及びコースにより、以下の受験資格を取得することができます。

	分野・領域	コース等	取得できる資格
実践看護学分野	地域生活看護学領域	在宅看護学CNSコース	日本看護協会 在宅看護専門看護師受験資格 <sup>※1</sup>
	母子看護学領域	小児看護学CNSコース	日本看護協会 小児看護専門看護師受験資格 <sup>※1</sup>
	成人看護学領域	急性期看護学CNSコース	日本看護協会 急性・重症患者看護専門看護師受験資格 <sup>※1</sup>
		がん看護学CNSコース	日本看護協会 がん看護専門看護師受験資格 <sup>※1</sup>
	精神看護学領域	精神看護学CNSコース	日本看護協会 精神看護専門看護師受験資格 <sup>※1</sup>
看護マネジメント学分野 看護教育・管理学領域	看護管理学	日本看護協会 認定看護管理者受験資格 <sup>※2</sup>	

※1 専門看護師の受験資格は、日本国の看護師免許を有し、実務研修が5年（3年以上は専門看護分野の実務研修）以上必要となる。

※2 認定看護管理者の受験資格は、日本国の看護師免許を有し、免許取得後5年（3年以上は看護師長相当以上の看護管理を経験）以上の実務経験を有する者で、本学において看護管理に関する単位を取得し、看護管理に関する内容の修士論文を作成した者である。

## 2-3 教育課程の編成の考え方及び特色

### (1) 教育課程編成の基本方針

#### ①課程制大学院の趣旨に沿った教育課程・研究指導

本課程の設置の趣旨及び教育目的を達成するために必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成しています。

教育課程の編成にあたっては専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養する内容としています。

#### ②専攻分野

本課程の教育目標を達成し、卓越した実践能力を有する看護職、統合的な調整能力を有する看護管理者及び看護学の発展に寄与できる研究者・教育者を育成するため、以下の2つの看護学分野を設置しています。

##### ア 実践看護学分野

看護職は、生命の尊重及び個人の尊厳を根幹に、個人や集団の健康に対するニーズに応じた看護を提供するものです。現代の高度に複雑化した医療・看護においては、深い学識を基盤とした卓越した実践能力を有する看護者によって、正確で質の高い、専門的技術を駆使した看護の提供が必須です。このため、実践看護学分野を設けて各ライフサイクル・発達過程における個人や集団を対象とした看護ケアの実践と応用について教育・研究を行います。

また、実践看護学分野において教育・研究の対象を「地域生活看護学領域」、「母子看護学領域」、「成人看護学領域」、「精神看護学領域」及び「看護技術学領域」の5領域で構成しています。

なお、選択科目の履修方法により、「地域生活看護学領域」において在宅看護、「母子看護学領域」において小児看護、「成人看護学領域」において急性・重症患者看護、がん看護及び「精神看護学領域」において精神看護の専門看護師の認定審査の受験資格を取得できる内容としています。

##### イ 看護マネジメント学分野

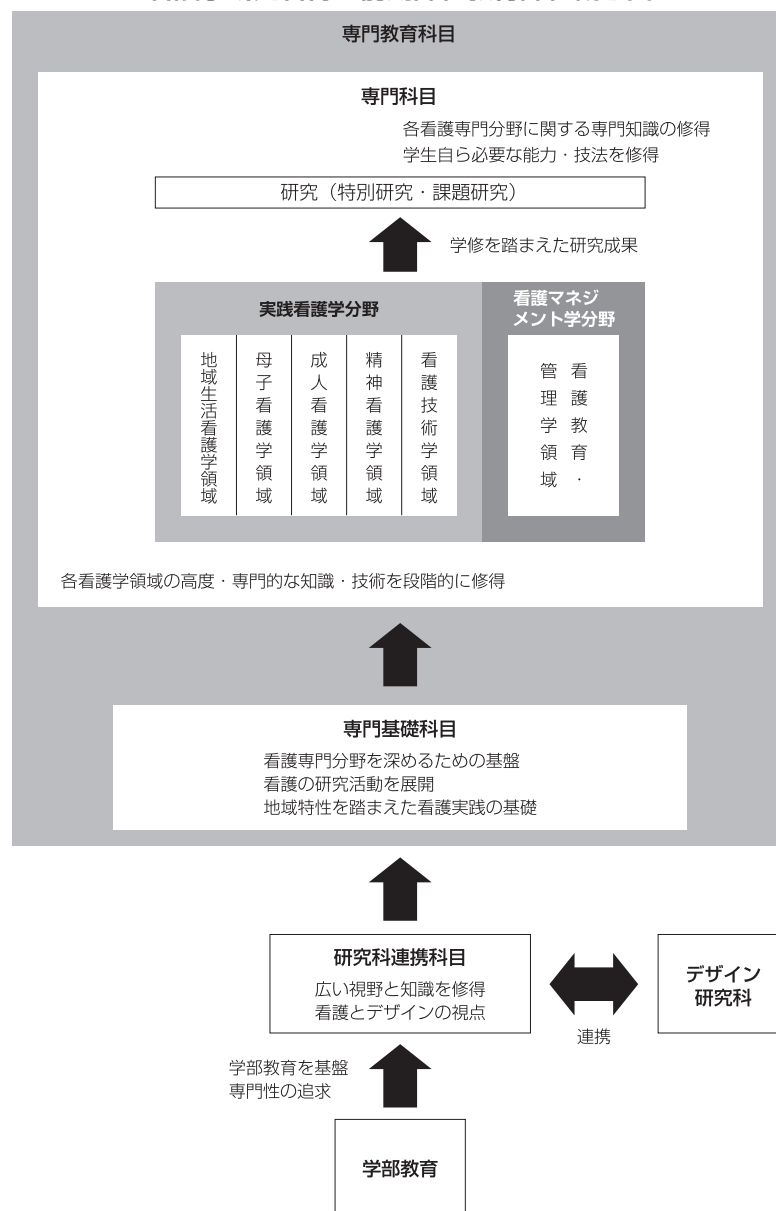
高度・専門医療の現場あるいは在宅・地域において、看護の専門性を的確に発揮するとともに、専門性を向上させる統合的な調整能力を有する看護管理者の存在が不可欠です。また、患者教育、看護基礎教育、看護継続教育、看護卒後教育において教育的機能を発揮するため看護教育学において、教育学、看護教育の基盤を修得した高い教育的機能が求められています。このため、「看護教育・管理学領域」を設けて看護全体をマネジメントし、リーダーシップを発揮できる人材の育成や教育に携わる基礎を培う教育学を修めるための教育・研究を行います。

【専攻分野と領域】

研究科・専攻	分 野	領 域
看護学研究科看護学専攻 博士前期課程	実践看護学分野	地域生活看護学領域
		母子看護学領域
		成人看護学領域
		精神看護学領域
		看護技術学領域
	看護マネジメント学分野	看護教育・管理学領域

(2) 科目区分及び授業科目の特色

看護学研究科博士前期課程教育課程概念図



### ①構成・単位数

授業科目は、大きく「研究科連携科目」と「専門教育科目」に区分しています。さらに「専門教育科目」は、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分しています。「研究科連携科目」はデザイン研究科の学生と合同で行い、幅広い視野を身につけるため、看護とデザインに共通する関連領域の基礎的素養を涵養する内容となっています。「専門教育科目」は、看護分野の高度専門職業人、研究者あるいは教育者として専門的に学ぶ科目であり、「専門基礎科目」は本研究科博士前期課程において履修・研究していく上で必要な能力や方法を身につけるための内容とし、「専門科目」では看護学の各専門分野・領域における専門知識・技術、研究方法を修得するための内容としています。

修了に必要な単位は専門看護師の認定希望者を除き、「研究科連携科目」は4単位以上、「専門基礎科目」は8単位以上、「専門科目」は16単位以上、さらに学生が興味・関心のある授業科目を「研究科連携科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」から2単位以上選択して履修することとしています。

#### 【修了要件】

(単位)

区 分	必修科目	選択科目	自由科目	合 計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	20	—	24
専門基礎科目	4	4	—	8
専門科目	—	16	—	16
選択する領域・分野から	—	8	—	8
研究	—	8	—	8
合 計	4	26	—	30

(専門看護師の認定を希望する場合)

(単位)

区 分	必修科目	選択科目	自由科目	合 計
研究科連携科目	—	4	—	4
専門教育科目	4	36	—	40
専門基礎科目	4	10	—	14
専門科目	—	26	—	26
選択する領域・分野から	—	22	—	22
研究	—	4	—	4
合 計	4	42	—	46

### ②科目配置の特色

学生が看護の高度・専門的知識・技術を学ぶことができるよう体系的に科目を配置するとともに、組織的に教育・研究を展開しています。

#### ア 研究科連携科目

研究科連携科目は、学部の教育・研究で取組む「デザイン学部と看護学部の連携」を発展・充実させ、本学大学院の教育・研究理念の実現を目指した科目であり、デザイン研究科、看護学研究科共通に設け、両研究科の学生が合同で学びます。

本学大学院では、両研究科ともに専門教育科目を通じて、専門性を高める一方、高度専門職業人の育成を目的としていることから、研究科連携科目において高度な専門性を支える広い視野と知識を平行して身につけることを可能とし、それぞれデザインと看護の視点から課題や問題を捉えることを特色としています。

特に、演習科目として「連携プロジェクト演習」を設け、両研究科の教員及び学生を混在させた小グループを編成し、グループ毎に地域の抱える課題等を題材にデザイン及び看護双方の視点から調査・研究を行い、課題解決を導くプロジェクトとしての成果をまとめます。

#### イ 専門基礎科目

専門基礎科目は、看護専門分野を深めるために基盤となる科目、看護専門知識・技術の向上や開発などの研究活動を展開していくための科目、地域特性を踏まえた看護を実践していくための基礎となる科目を配置しています。



看護実践への理論の応用を探究する「看護理論特論」及び保健・医療・福祉における様々な課題を研究・解決していくための研究法を理解するために「看護研究法特論」を必修科目として配置しています。

#### ウ 専門科目

専門科目は、本課程の教育目的を踏まえ、各専門分野に関する専門知識を身につけるとともに学生自らが看護学を研究していく上で必要な能力、技法を修得するための科目を配置し、「実践看護学分野」、「看護マネジメント学分野」及び「研究」に区分しています。

「実践看護学分野」及び「看護マネジメント学分野」は、それぞれの看護学領域に特論と特論に基づく演習を配置し、看護学領域の高度・専門的知識・技術を段階的に修得する内容としています。また、「実践看護学分野」は「地域生活看護学領域」、「母子看護学領域」、「成人看護学領域」、「精神看護学領域」及び「看護技術学領域」に分け、高度・専門的知識、技術等を修得できる内容としています。学生は、これまでの学修経験や臨床経験、志望動機等に応じて、いずれかの看護学領域を選択し、必要な科目を履修することができます。

それぞれの領域において、当該領域の総論である「地域生活看護学特論」、「母子看護学特論」などの講義とこれらの講義を踏まえた「地域生活看護学演習」、「母子看護学演習」などの演習を配置しています。また、個別の看護学専門領域の特論と演習を配置し、当該看護学領域における高度・専門的な知識・技術を学ぶこととしています。これらのことから、総論から各論へ実践的な専門的知識・技術を段階的に修得できるように科目を配置しています。

「研究」は、学生が選択したそれぞれの領域における学修を踏まえ、学生自らが研究課題を探究し、指導教員等による指導のもと研究に取り組み、その成果を修士論文としてまとめる「特別研究」、あるいは専門看護師を目指す者が修士論文に相当する課題研究論文を作成する「課題研究」を配置しています。

#### エ 専門看護師（CNS）教育課程の認定基準に配慮した授業科目の設定

公益社団法人日本看護協会は複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究の役割を果たす専門看護師制度を設け、保健・医療・福祉や看護学の発展に寄与することとしています。専門看護師は看護系大学院博士前期課程で一般社団法人日本看護系大学協議会が定める基準の所定の単位を取得することが条件となっています。

実践看護学分野のうち地域生活看護学領域、母子看護学領域、成人看護学領域及び精神看護学領域において、在宅看護、小児看護、急性・重症患者看護、がん看護及び精神看護分野の専門看護師（CNS）コースを設置し、当該看護分野の専門看護師の育成を目指し、一般社団法人日本看護系大学協議会の認定基準に沿った授業科目を設定しています。

#### ③配当年次の考え方

専門基礎科目や専門科目の各領域で基盤となる特論は1年次前期に配置し、学生が教育・研究を行う上で基礎的知識を養うこととしています。

この学修を基に1年次後期以降に学生が選択した領域において高度で専門的な理論・技術を修得するとともに、個々の研究の展開及び取りまとめができるよう科目を配置しています。





# 3

## 博士前期課程 履修要領

3-1 授業科目一覧 .....	26
3-2 履修モデル .....	28
3-3 履修登録について .....	47

# 3-1

## 授業科目一覧

科目区分	科目ナンバリング	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			修了要件	
				必修	選択	自由	講義	演習	実習		
研究科連携科目	C5B701	国際関係特論	1・2 前		2		○			4単位以上	
	C5B702	少子高齢社会特論	1・2 前		2		○				
	C5B703	健康福祉政策特論	1・2 後		2		○				
	C5B704	地域経済政策特論	1・2 後		2		○				
	C5B705	ヒューマニティ特論	1・2 後		2		○				
	C5B706	コミュニケーション特論	1・2 前		2		○				
	C1B701	連携プロジェクト演習	1 通		2			○			
専門基礎科目	N1B801	看護理論特論	1 前	2			○			(専門看護師認定希望者14単位以上)	
	N1B802	看護研究法特論	1 前	2			○				
	N1B803	看護倫理学特論	1 前		2		○				
	N1B804	看護管理学特論	1 前		2		○				
	N1B805	臨床哲学特論	1 後		2		○				
	N1B806	看護コンサルテーション特論	1 後		2		○				
	N1B807	看護専門職教育特論	1 前		2		○				
	N1B808	継続教育特論	1 後		2		○				
	N1B809	寒冷地生活支援看護学特論	1 後		2		○				
	N1B810	家族看護学特論	1 後		2		○				
	N1B811	フィジカルアセスメント論	1 通		2		○				
	N1B812	病態生理学特論	1 前		2		○				
	N1B813	臨床薬理学特論	1 後		2		○				
専門教育科目	地域生活看護学領域	N1B821	地域生活看護学特論	1 前		2		○		1つの領域から8単位以上(専門看護師認定希望者22単位以上)	
		N5B821	老年看護学特論	1・2 後		2		○			
		N1B822	在宅看護学特論A	1 後		1		○			
		N1B823	在宅看護学特論B	1 通		1		○			
		N1B824	在宅看護学特論C	1 後		2		○			
		N2B821	在宅看護学特論D	2 前		2		○			
		N2B822	在宅看護学特論E	2 前		2		○			
		N5B822	地域看護学特論	1・2 後		2		○			
		N1B825	地域生活看護学演習	1 通		2			○		
		N5B823	老年看護学演習	1・2 通		2			○		
		N1B826	在宅看護学演習	1 通		2			○		
		N5B824	地域看護学演習	1・2 通		2			○		
	実践看護学分野	N1B827	高度在宅看護学実習Ⅰ	1 通		2			○		
		N2B823	高度在宅看護学実習Ⅱ	2 通		3			○		
		N2B824	高度在宅看護学実習Ⅲ	2 通		3			○		
		N2B825	高度在宅看護学実習Ⅳ	2 通		2			○		
		母子看護学領域	N1B831	母子看護学特論	1 前		2		○		
			N5B831	母性看護学特論	1・2 後		2		○		
			N1B832	小児看護学特論A	1 前		2		○		
			N1B833	小児看護学特論B	1 後		2		○		
			N1B834	小児看護学特論C	1 後		1		○		
			N2B831	小児看護学特論D	2 前		1		○		
			N1B835	小児看護学特論E	1 後		2		○		
			N1B836	母子看護学演習	1 通		2				○
			N5B832	母性看護学演習	1・2 通		2				○
N1B837	小児看護学演習A		1 通		2			○			
N5B833	小児看護学演習B	1・2 通		2			○				
N1B838	高度小児看護学実習Ⅰ	1 後		2			○				
N2B832	高度小児看護学実習Ⅱ	2 通		4			○				
N2B833	高度小児看護学実習Ⅲ	2 通		4			○				

研究科連携科目及び専門教育科目のうちから2単位以上

科目区分	科目ナンバリング	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			修了要件			
				必修	選択	自由	講義	演習	実習				
専門教育科目	専門科目	成人看護学領域 実践看護学分野	N1B841	成人看護学特論	1 前		2		○		1つの領域から8単位以上（専門看護師認定希望者22単位以上） 研究科連携科目及び専門教育科目のうちから2単位以上		
			N1B842	急性期看護学特論	1 通		2		○				
			N5B841	慢性期看護学特論	1・2 後		2		○				
			N1B843	がん看護学特論	1 後		2		○				
			N5B842	急性期病態管理特論	1・2 後		2		○				
			N1B844	クリティカルケア看護学特論	1 後		2		○				
			N1B845	アドバンスト・フィジカルアセスメント論	1 後		2		○				
			N1B846	がん看護学援助特論	1 後		2		○				
			N1B847	がん薬物療法看護特論	1 後		2		○				
			N1B848	がん看護・緩和ケア特論	1 後		2		○				
			N1B849	がん病態治療特論	1 後		2		○				
			N1B850	成人看護学演習	1 通		2			○			
			N5B843	急性期看護学演習	1・2 通		2			○			
			N2B841	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2 通		2			○			
			N2B842	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2 通		2			○			
			N5B844	慢性期看護学演習	1・2 通		2			○			
			N2B843	がん薬物療法看護演習	2 通		2			○			
			N2B844	がん看護・緩和ケア演習	2 通		2			○			
			N1B851	高度急性期看護学実習Ⅰ	1 後		3					○	
			N2B845	高度急性期看護学実習Ⅱ	2 通		3					○	
			N2B846	高度急性期看護学実習Ⅲ	2 通		2					○	
			N2B847	高度急性期看護学実習Ⅳ	2 通		2					○	
			N1B852	高度がん看護学実習Ⅰ	1 後		2					○	
			N2B848	高度がん看護学実習Ⅱ	2 通		4					○	
			N2B849	高度がん看護学実習Ⅲ	2 通		4					○	
			精神看護学領域	N1B861	精神看護学特論A	1 前		2		○			
				N1B862	精神看護学特論B	1 後		2		○			
				N1B863	精神看護学特論C	1 後		2		○			
				N1B864	精神看護学特論D	1 後		2		○			
				N2B861	慢性期精神看護学特論	2 前		1		○			
				N1B865	精神看護学演習A	1 通		2				○	
				N2B862	精神看護学演習B	2 通		2				○	
				N2B863	慢性期精神看護学演習	2 後		1				○	
				N1B866	高度精神看護学実習Ⅰ	1 後		2					○
				N1B867	高度精神看護学実習Ⅱ	1 後		2					○
				N2B864	高度精神看護学実習Ⅲ	2 通		4					○
				N2B865	高度精神看護学実習Ⅳ	2 通		2					○
			看護技術学領域	N1B871	看護技術学特論Ⅰ	1 前		2		○			
				N5B871	看護技術学特論Ⅱ	1・2 後		2		○			
				N1B872	看護技術学演習Ⅰ	1 通		2				○	
				N5B872	看護技術学演習Ⅱ	1・2 通		2				○	
			看護マネジメント学分野	N1B881	看護教育・看護マネジメント学特論	1 前		2		○			
				N5B881	看護教育学特論	1・2 後		2		○			
				N5B882	看護マネジメント学特論	1・2 後		2		○			
				N1B882	看護教育・看護マネジメント学演習	1 通		2				○	
N5B883	看護教育学演習	1・2 通			2			○					
N5B884	看護マネジメント学演習	1・2 通			2			○					
研究	N5B891	特別研究	1～2 通		8			○					
	N5B892	課題研究	1～2 通		4			○					

# 3-2 履修モデル

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	実践看護学分野													看護マネジメント学分野				
				地域生活看護学				母子看護学			成人看護学				精神看護学		看護技術学	看護教育・管理学			
				老年	在宅	在宅CNS	地域	母性	小児	小児CNS	急性期	急性期CNS	慢性期	がん	がんCNS	精神	精神CNS	看護技術	看護教育	看護管理	
研究科連携科目	国際関係特論	1・2 前	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	少子高齢社会特論	1・2 前	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	健康福祉政策特論	1・2 後	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	△	△	△		
	地域経済政策特論	1・2 後	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	ヒューマニティ特論	1・2 後	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	コミュニケーション特論	1・2 前	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	連携プロジェクト演習	1 通	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
専門基礎科目	看護理論特論	1 前	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	看護研究法特論	1 前	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
	看護倫理学特論	1 前	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	看護管理学特論	1 前	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	臨床哲学特論	1 後	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	看護コンサルテーション特論	1 後	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	看護専門職教育特論	1 前	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	継続教育特論	1 後	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	寒冷地生活支援看護学特論	1 後	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	家族看護学特論	1 後	2	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	フィジカルアセスメント論	1 通	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	病態生理学特論	1 前	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	臨床薬理学特論	1 後	2	△	△	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	△		
	専門教育科目	地域生活看護学領域	地域生活看護学特論	1 前	2	○	○	○	○												
地域生活看護学演習			1 通	2	○	○	○	○													
老年看護学特論			1・2 後	2	○	△	△	△													
老年看護学演習			1・2 通	2	○	△	△	△													
在宅看護学特論A			1 後	1	△	○	○	△													
在宅看護学特論B			1 通	1	△	○	○	△													
在宅看護学特論C			1 後	2	△	△	○	△													
在宅看護学特論D			2 前	2	△	△	○	△													
在宅看護学特論E			2 前	2	△	△	○	△													
在宅看護学演習			1 通	2	△	○	○	△													
実践看護学分野		高度在宅看護学実習	高度在宅看護学実習 I	1 通	2			○													
			高度在宅看護学実習 II	2 通	3			○													
			高度在宅看護学実習 III	2 通	3			○													
			高度在宅看護学実習 IV	2 通	2			○													
			地域看護学特論	1・2 後	2	△	△	△	○												
		地域看護学演習	1・2 通	2	△	△	△	○													
		母子看護学領域	母子看護学特論	1 前	2					○	○	○									
			母子看護学演習	1 通	2					○	○	○									
			母性看護学特論	1・2 後	2					○	△	△									
			母性看護学演習	1・2 通	2					○	△	△									
小児看護学特論A	1 前		2					△	△	○											
小児看護学特論B	1 後		2					△	○	○											
小児看護学特論C	1 後		1					△	△	○											
小児看護学特論D	2 前		1					△	△	○											
小児看護学特論E	1 後		2					△	△	○											
小児看護学演習A	1 通		2					△	○	○											
小児看護学演習B	1・2 通	2					△	△	○												
高度小児看護学実習 I	1 後	2							○												
高度小児看護学実習 II	2 通	4							○												
高度小児看護学実習 III	2 通	4							○												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	実践看護学分野											看護マネジメント学分野							
				地域生活看護学				母子看護学		成人看護学					精神看護学		看護技術学	看護教育・管理学				
				老年	在宅	在宅CNS	地域	母性	小児	小児CNS	急性期	急性期CNS	慢性期	がん	がんCNS	精神	精神CNS	看護技術	看護教育	看護管理		
専門教育科目	成人看護学領域	成人看護学特論	1 前	2									○	△	○	○	△					
		成人看護学演習	1 通	2										○	△	○	○	△				
		急性期看護学特論	1 通	2										○	○	△	△	△				
		急性期病態管理学特論	1・2 後	2										△	○	△	△	△				
		クリティカルケア看護学特論	1 後	2										△	○	△	△	△				
		アドバンストフィジカルアセスメント論	1 後	2										△	○	△	△	△				
		急性期看護学演習	1・2 通	2										△	○	△	△	△				
		クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2 通	2										△	○	△	△	△				
		クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2 通	2										△	○	△	△	△				
		高度急性期看護学実習Ⅰ	1 後	3											○							
		高度急性期看護学実習Ⅱ	2 通	3											○							
		高度急性期看護学実習Ⅲ	2 通	2											○							
		高度急性期看護学実習Ⅳ	2 通	2											○							
		慢性期看護学特論	1・2 後	2										△	△	○	△	△				
		慢性期看護学演習	1・2 通	2										△	△	○	△	△				
		がん看護学特論	1 後	2										△	△	△	○	○				
		がん看護学援助特論	1 後	2										△	△	△	△	○				
		がん薬物療法看護学特論	1 後	2										△	△	△	△	○				
	がん看護・緩和ケア特論	1 後	2										△	△	△	△	○					
	がん病態治療特論	1 後	2										△	△	△	△	○					
	がん薬物療法看護学演習	2 通	2										△	△	△	△	○					
	がん看護・緩和ケア演習	2 通	2										△	△	△	△	○					
	高度がん看護学実習Ⅰ	1 後	2													○						
	高度がん看護学実習Ⅱ	2 通	4													○						
	高度がん看護学実習Ⅲ	2 通	4													○						
	精神看護学領域	精神看護学特論A	1 前	2												○	○					
		精神看護学特論B	1 後	2													○					
		精神看護学特論C	1 後	2												○	○					
		精神看護学特論D	1 後	2												○	○					
		慢性期精神看護学特論	2 前	1													○					
		精神看護学演習A	1 通	2												○	○					
		精神看護学演習B	2 通	2													○					
		慢性期精神看護学演習	2 後	1													○					
高度精神看護学実習Ⅰ		1 後	2													○						
高度精神看護学実習Ⅱ		1 後	2													○						
高度精神看護学実習Ⅲ		2 通	4													○						
高度精神看護学実習Ⅳ		2 通	2													○						
看護技術学領域	看護技術学特論Ⅰ	1 前	2																○			
	看護技術学特論Ⅱ	1・2 後	2																○			
	看護技術学演習Ⅰ	1 通	2																○			
	看護技術学演習Ⅱ	1・2 通	2																○			
	看護マネジメント学分野	看護教育・看護マネジメント学特論	1 前	2																○	○	
		看護教育・看護マネジメント学演習	1 通	2																○	○	
看護教育学特論		1・2 後	2																○	△		
看護教育学演習		1・2 通	2																○	△		
看護マネジメント学特論		1・2 後	2																△	○		
看護マネジメント学演習		1・2 通	2																△	○		
研究	特別研究	1~2 通	8	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	課題研究	1~2 通	4			○				○			○		○							

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 実践看護学分野 地域生活看護学領域 老年看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2	△				
健康福祉政策特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	4	0	0	0	2単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2		△			
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2		△			
家族看護学特論	2		△			
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	4	6	0	0	8単位以上
(専門科目)						
地域生活看護学特論	2	○				
地域生活看護学演習	2	○	○			
老年看護学特論	2		○			
老年看護学演習	2			○	○	
在宅看護学特論A	1					
在宅看護学特論B	1					
在宅看護学特論C	2					
在宅看護学特論D	2					
在宅看護学特論E	2					
在宅看護学演習	2					
地域看護学特論	2					
地域看護学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	4	0	10	
合計	30	10	10	0	10	30単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

高齢者の加齢過程や健康生活を営む対象者やケアの提供者に対して、生命力を高め生活を支援するための専門的看護実践を可能にする能力を修得する。また、臨床現場の倫理的課題を含めた諸問題に対し、課題解決のための教育・研究の統合力を修得する。

### 期待される進路

保健・医療・福祉施設における高度臨床看護者の育成、大学等教育・研究機関における教育学教育者、看護学研究者の育成、大学院博士後期課程進路。

## 実践看護学分野 地域生活看護学領域 在宅看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2	△				
健康福祉政策特論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2	△				
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2		△			
家族看護学特論	2		△			
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	6	4	0	0	
(専門科目)						8単位以上
地域生活看護学特論	2	○				
地域生活看護学演習	2	○	○			
在宅看護学特論A	1		○			
在宅看護学特論B	1	○	○			
在宅看護学特論C	2					
在宅看護学特論D	2					
在宅看護学特論E	2					
在宅看護学演習	2	○	○			
老年看護学特論	2					
老年看護学演習	2					
地域看護学特論	2					
地域看護学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	6	0	8	30単位以上
合計	30	10	12	0	8	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

高度専門職業人として、対象のニーズを的確に判断し、科学的根拠に基づき卓越した看護実践を展開する。在宅ケアチームにおいて指導的役割を發揮し、研究的視点から在宅看護の質向上に寄与できる。

### 期待される進路

訪問看護事業所等において指導・教育的な役割を果たす看護実践者。看護管理者。

大学等における教育・研究者。大学院博士後期課程への進学



## 実践看護学分野 地域生活看護学領域 在宅看護学 履修例（専門看護師コース）

履修科目	単 位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
健康福祉政策論（※1）	2		○			
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2	△				
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	14単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論（※1）	2	◎				
看護研究法特論（※1）	2	◎				
看護倫理学特論（※1）	2					
看護管理学特論（※1）	2	○				
看護コンサルテーション特論（※1）	2		○			
継続教育特論（※1）	2					
フィジカルアセスメント論（※2）	2	○	○			
病態生理学特論（※2）	2	○				
臨床薬理学特論（※2）	2		○			
家族看護学特論	2		○			
臨床哲学特論	2					
看護専門職教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
専門基礎科目 計	16	8	8	0	0	22単位以上
(専門科目)						
地域生活看護学特論	2	○				
地域生活看護学演習	2	○	○			
在宅看護学特論A	1		○			
在宅看護学特論B	1	○	○			
在宅看護学特論C	2		○			
在宅看護学特論D	2			○		
在宅看護学特論E	2			○		
在宅看護学演習	2	○	○			
老年看護学特論	2					
老年看護学演習	2					
地域看護学特論	2					
地域看護学演習	2					
(実習)						
高度在宅看護学実習Ⅰ	2	○	○			
高度在宅看護学実習Ⅱ	3			○	○	
高度在宅看護学実習Ⅲ	3			○	○	
高度在宅看護学実習Ⅳ	2			○	○	
(研究)						4単位
課題研究	4	○	○	○	○	
専門科目 計	28	2	10	4	12	46単位以上
合 計	48	12	20	4	12	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

高度専門職業人として、対象の健康と生活上の課題を包括的に査定し、高度な専門的知識と倫理性をもってQOL向上に寄与する看護実践を展開できる。在宅看護に関連する事業所や保健・医療・福祉分野において卓越したマネジメントとリーダーシップを発揮できる。

### 期待される進路

訪問看護事業所や保健・医療・福祉分野等で指導・教育的役割を担う高度看護実践者（専門看護師）。看護管理者。訪問事業等の新規開拓。  
大学や研究機関における教育・研究者。大学院博士後期課程への進学。

注：網掛けの科目は専門看護師（CNS）教育課程として認定を受けている科目（うち※1は共通科目A、※2は共通科目B）

# 実践看護学分野 地域生活看護学領域 地域看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2	△				
健康福祉政策論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2	△				
臨床哲学特論	2		△			
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2		△			
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	6	4	0	0	
(専門科目)						8単位以上
地域生活看護学特論	2	○				
地域生活看護学演習	2	○	○			
地域看護学特論	2		○			
地域看護学演習	2			○	○	
老年看護学特論	2					
老年看護学演習	2					
在宅看護学特論A	1					
在宅看護学特論B	1					
在宅看護学特論C	2					
在宅看護学特論D	2					
在宅看護学特論E	2					
在宅看護学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	4	0	10	
合計	30	10	10	0	10	30単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 期待される能力

個人・家族・集団の生活力形成をめざしたコミュニティケアを実践でき、同時に俯瞰的視点でコミュニティ全体の健康を保證する保健プログラムを展開する指導力を培う。このプロセスにおいて学際的な研究能力を養い、実践を経た経験知と研究・教育の統合力を修得する。

## 期待される進路

- 保健看護政策の企画立案を担当する行政職、
- 公衆衛生看護の高度実践者、教育者
- 企業などで社員と組織の健全性支援に携わる看護実践者および看護管理者
- 教育研究機関、報道機関などにおいて学際的な教育・研究・啓発活動を担う看護職者

## 実践看護学分野 母子看護学領域 母性看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件	
		1年		2年			
		前期	後期	前期	後期		
(研究科連携科目)						4単位以上	
国際関係特論	2	△					
少子高齢社会特論	2						
健康福祉政策特論	2						
地域経済政策特論	2						
ヒューマニティ特論	2						
コミュニケーション特論	2						
連携プロジェクト演習	2	△	△				
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0		
(専門基礎科目)							8単位以上
看護理論特論	2	◎					
看護研究法特論	2	◎					
看護倫理学特論	2	△					
看護管理学特論	2						
臨床哲学特論	2						
看護コンサルテーション特論	2						
看護専門職教育特論	2	△					
継続教育特論	2						
寒冷地生活支援看護学特論	2						
家族看護学特論	2		△				
フィジカルアセスメント論	2						
病態生理学特論	2						
臨床薬理学特論	2						
専門基礎科目 計	10	8	2	0	0		
(専門科目)						8単位以上	
母子看護学特論	2	○					
母子看護学演習	2	○	○				
母性看護学特論	2		○				
母性看護学演習	2			○	○		
小児看護学特論A	2						
小児看護学特論B	2						
小児看護学特論C	1						
小児看護学特論D	1						
小児看護学特論E	2						
小児看護学演習A	2						
小児看護学演習B	2						
(研究)						8単位	
特別研究	8	○	○	○	○		
専門科目 計	16	2	4	0	10		
合計	30	12	8	0	10	30単位以上	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

女性の生涯を通じた健康支援に必要な知識・技術を獲得し、質の高いケアを提供できる能力を備える。この能力を発揮することにより、看護実践および教育の場において指導的かつ教育的役割を果たすことができる。加えて、常に、ケアの質の向上を目指した現状把握、課題発見および課題解決に取り組むことが期待される。

### 期待される進路

保健・医療施設の高度看護実践者、病院の看護管理者、大学等の看護教育者  
WHOなど国際保健分野で活躍する看護職、大学院博士後期課程進学

## 実践看護学分野 母子看護学領域 小児看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2		△			
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	0	4	0	0	2単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2		△			
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2		△			
家族看護学特論	2		△			
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	4	6	0	0	
(専門科目)						8単位以上
母子看護学特論	2	○				
母子看護学演習	2	○	○			
小児看護学特論A	2					
小児看護学特論B	2		○			
小児看護学特論C	1					
小児看護学特論D	1					
小児看護学特論E	2					
小児看護学演習A	2	○	○			
小児看護学演習B	2					
母性看護学特論	2					
母性看護学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	6	0	8	30単位以上
合計	30	6	16	0	8	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

子どもの成長・発達、健康状態、セルフケア能力、家族発達や家族関係の力動を査定する能力を養い、子どもと家族の個性に適した支援を提供するための技法を修得する。子どもの生命と健康を守るために、小児看護領域において求められる倫理的判断能力や、他領域との協調・連携に期待される調整能力などを発揮することができる。

### 期待される進路

母子保健・学校保健、小児医療・障害児（者）福祉施設などにおいて指導的な役割をたす高度看護実践者。小児病棟などの看護管理者。大学や研究機関における教育・研究者。大学院博士後期課程進学など

## 実践看護学分野 母子看護学領域 小児看護学（専門看護師コース）履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
健康福祉政策特論(※1)	2		○			
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2	△				
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	14単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論(※1)	2	◎				
看護研究法特論(※1)	2	◎				
看護倫理学特論(※1)	2	○				
看護管理学特論(※1)	2					
看護コンサルテーション特論(※1)	2		○			
継続教育特論(※1)	2					
フィジカルアセスメント論(※2)	2	○	○			
病態生理学特論(※2)	2	○				
臨床薬理学特論(※2)	2		○			
臨床哲学特論	2					
看護専門職教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
専門基礎科目 計	14	8	6	0	0	22単位以上
(専門科目)						
母子看護学特論	2	○				
母子看護学演習	2	○	○			
小児看護学特論A	2	○				
小児看護学特論B	2		○			
小児看護学特論C	1		○			
小児看護学特論D	1			○		
小児看護学特論E	2		○			
小児看護学演習A	2	○	○			
小児看護学演習B	2			○	○	
母性看護学特論	2					
母性看護学演習	2					
(実習)						
高度小児看護学実習Ⅰ	2		○			
高度小児看護学実習Ⅱ	4			○	○	
高度小児看護学実習Ⅲ	4			○	○	
(研究)						4単位
課題研究	4	○	○	○	○	
専門科目 計	30	4	11	1	14	46単位以上
合計	48	14	19	1	14	

◎:必修科目 ○:選択必修科目 △:選択科目

### 期待される能力

医療依存度の高い対象に対して、子どもの成長・発達、病態、セルフケア能力、家族発達や家族関係の力動を査定し、状況に応じた支援活動を遂行し、問題解決をはかる能力と技能を有する。また、今後一層の増加が見込まれる居宅患児の医療的ケア支援事業の実現に向けて、優れた倫理的判断力と調整能力を発揮し、対象のニーズに応じた医療・看護・福祉・教育のネットワークを組織することができる。

### 期待される進路

あらゆる小児看護臨床において中心的な役割を担い、事例の健康問題の分析と看護対応、コンサルテーション、教育活動や管理に従事することができる専門看護師。

小児病棟・小児病院などの看護管理者。

大学等における教育・研究者、博士後期課程への進学など。

注：網掛けの科目は専門看護師（CNS）教育課程として認定を受けている科目（うち※1は共通科目A、※2は共通科目B）

# 実践看護学分野 成人看護学領域 急性期看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	8単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2	△				
看護管理学特論	2	△				
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2		△			
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	8	2	0	0	8単位以上
(専門科目)						
成人看護学特論	2	○				
成人看護学演習	2	○	○			
急性期看護学特論	2	○	○			
急性期病態管理学特論	2					
クリティカルケア看護学特論	2		△			
アドバンス・フィジカルアセスメント論	2					
急性期看護学演習	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2					
慢性期看護学特論	2					
慢性期看護学演習	2					
がん看護学特論	2					
がん看護学援助特論	2					
がん薬物療法看護学特論	2					
がん看護・緩和ケア特論	2					
がん病態治療特論	2					
がん薬物療法看護学演習	2					
がん看護・緩和ケア演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	6	0	8	30単位以上
合計	30	12	10	0	8	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 期待される能力

心身のストレス、倫理的課題や緊急性が高い病態を判断し、個々の健康問題やQOL向上へ向けた適切な看護活動へ結びつけることができる高度な看護実践力を修得、また、複雑な急性期の環境アセスメント、リスクマネジメントができる能力を培うことによって、実践・教育・研究の指導的な役割を担い質の高い急性期ケアを保障することが期待できる。

## 期待される進路

保健・医療・福祉施設、行政機関において指導的な役割をはたす高度看護実践者。

急性期病棟などの看護管理者。

大学や研究機関における教育・研究者。大学院博士後期課程進学など

# 実践看護学分野 成人看護学領域 急性期看護学（専門看護師コース）履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
健康福祉政策特論(※1)	2		○			
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論(※1)	2	◎				
看護研究法特論(※1)	2	◎				
看護倫理学特論(※1)	2					
看護管理学特論(※1)	2					
看護コンサルテーション特論(※1)	2		○			
継続教育特論(※1)	2		○			
フィジカルアセスメント論(※2)	2	○	○			
病態生理学特論(※2)	2	○				
臨床薬理学特論(※2)	2		○			
臨床哲学特論	2					
看護専門職教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
専門基礎科目 計	14	6	8	0	0	
(専門科目)						22単位以上
成人看護学特論	2	△				
成人看護学演習	2	△	△			
急性期看護学特論	2	○	○			
急性期病態管理学特論	2		○			
クリティカルケア看護学特論	2		○			
アドバンス・フィジカルアセスメント	2		○			
急性期看護学演習	2			○	○	
クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2			○	○	
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2			○	○	
慢性期看護学特論	2					
慢性期看護学演習	2					
がん看護学特論	2					
がん看護学援助特論	2					
がん薬物療法看護特論	2					
がん看護・緩和ケア特論	2					
がん病態治療特論	2					
がん薬物療法看護演習	2					
がん看護・緩和ケア演習	2					
(実習)						
高度急性期看護学実習Ⅰ	3		○			
高度急性期看護学実習Ⅱ	3			○	○	
高度急性期看護学実習Ⅲ	2			○	○	
高度急性期看護学実習Ⅳ	2			○	○	
(研究)						
課題研究	4	○	○	○	○	
専門科目 計	32	2	13	0	17	
合計	50	10	23	0	17	
						46単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 期待される能力

緊急性が高い病態を判断し適切な看護活動によって、個々が抱く健康問題を早期に解決し、患者・家族のQOL向上へ寄与できる。また、患者・家族が抱える心身のストレス・倫理的問題に対する的確な介入によって、危機状況の回避を支援できる。さらに多職種間の調整・連携や複雑な急性期環境のリスクマネジメントが出来る能力を培い実践・教育・研究等の指導的な役割を担い、質の高い急性期ケアを保障することが期待される。

## 期待される進路

医療施設、行政機関の看護専門職、特に急性期（救急部門、集中治療部門、周術期、急性期病棟あるいは災害急性期など）の高度な専門職（専門看護師）。

急性期病棟等の看護管理者。

大学等における教育・研究者、博士後期課程への進学など

注：網掛けの科目は専門看護師（CNS）教育課程として認定を受けている科目（うち※1は共通科目A、※2は共通科目B）

# 実践看護学分野 成人看護学領域 慢性期看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2	△				
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	4	0	0	0	8単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2		△			
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2		△			
寒冷地生活支援看護学特論	2		△			
家族看護学特論	2					
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	4	6	0	0	8単位以上
(専門科目)						
成人看護学特論	2	○				
成人看護学演習	2	○	○			
慢性期看護学特論	2		○			
慢性期看護学演習	2			○	○	
急性期看護学特論	2					
急性期病態管理学特論	2					
クリティカルケア看護学特論	2					
アドバンス・フィジカルアセスメント論	2					
急性期看護学演習	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2					
がん看護学特論	2					
がん看護学援助特論	2					
がん薬物療法看護学特論	2					
がん看護・緩和ケア特論	2					
がん病態治療特論	2					
がん薬物療法看護学演習	2					
がん看護・緩和ケア演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	4	0	10	30単位以上
合計	30	10	10	0	10	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 期待される能力

慢性疾患をもつ成人とその家族を理解し支援するための幅広い知識と技術を習得し、多様なケアの場において専門的看護実践を可能にする能力を養う。こうした看護実践能力を基盤として教育・研究の指導的役割を果たし、看護の質向上に寄与する多面的活動を展開することが期待される。

## 期待される進路

保健・医療・福祉施設における指導的役割を担う高度看護実践者、大学等における教育・研究者、大学院博士後期課程進学



# 実践看護学分野 成人看護学領域 がん看護学 履修例

履修科目	単 位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2	△				
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2		△			
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	8	6	2	0	0	
(専門科目)						8単位以上
成人看護学特論	2	○				
成人看護学演習	2	○	○			
がん看護学特論	2		○			
がん看護学援助特論	2					
がん薬物療法看護特論	2					
がん看護・緩和ケア特論	2		△			
がん病態治療特論	2					
がん薬物療法看護演習	2					
がん看護・緩和ケア演習	2			△	△	
急性期看護学特論	2					
急性期病態管理学特論	2					
クリティカルケア看護学特論	2					
アドバンス・フィジカルアセスメント論	2					
急性期看護学演習	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2					
慢性期看護学特論	2					
慢性期看護学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	18	2	6	0	10	30単位以上
合 計	30	10	10	0	10	

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

## 期待される能力

健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して、健康課題をタイムリーにアセスメントし、患者とその家族の意向や価値を尊重しながらQOLの維持・向上に寄与する専門的看護実践能力を養う。この能力を基盤とし実践・教育・研究の場において看護の質向上に寄与する活動を展開することが期待される。

## 期待される進路

医療施設における指導・教育的役割を果たす実践者、看護管理者。大学や研究施設における教育・研究者。博士後期課程への進学。

## 実践看護学分野 成人看護学領域 がん看護学（専門看護師コース）履修例

履修科目	単 位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
健康福祉政策特論（※1）	2		○			
国際関係特論	2	△				
少子高齢社会特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論（※1）	2	◎				
看護研究法特論（※1）	2	◎				
看護倫理学特論（※1）	2	○				
看護管理学特論（※1）	2	○				
看護コンサルテーション特論（※1）	2		○			
継続教育特論（※1）	2					
フィジカルアセスメント論（※2）	2	○	○			
病態生理学特論（※2）	2	○				
臨床薬理学特論（※2）	2		○			
臨床哲学特論	2					
看護専門職教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
専門基礎科目 計	16	10	6	0	0	
(専門科目)						22単位以上
成人看護学特論	2	△				
成人看護学演習	2	△	△			
がん看護学特論	2		○			
がん看護学援助特論	2		○			
がん薬物療法看護特論	2		○			
がん看護・緩和ケア特論	2		○			
がん病態治療特論	2		○			
がん薬物療法看護演習	2			○	○	
がん看護・緩和ケア演習	2			○	○	
急性期看護学特論	2					
急性期病態管理学特論	2					
クリティカルケア看護学特論	2					
アドバンスト・フィジカルアセスメント論	2					
急性期看護学演習	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2					
クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2					
慢性期看護学特論	2					
慢性期看護学演習	2					
(実習)						
高度がん看護学実習Ⅰ	2		○			
高度がん看護学実習Ⅱ	4			○	○	
高度がん看護学実習Ⅲ	4			○	○	
(研究)						4単位
課題研究	4	○	○	○	○	
専門科目 計	32	2	14	0	16	
合 計	52	14	22	0	16	46単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

複雑な健康課題を抱えるがん患者とその家族に対して、健康課題をタイムリーにアセスメントし効果的に介入することにより、患者とその家族の苦痛を緩和しながらQOLの維持・向上に寄与できる。また、倫理的視点に立ち患者と家族の価値や意向を尊重し、療養先の選択や意志決定を支援できる。さらに多職種チームと効果的に協働していけるような調整能力、コンサルテーション能力を培い、がん患者とその家族のケアの質の向上のために、あらゆる治療や療養の場において教育・研究的視点からもリーダーシップを発揮することが期待される。

### 期待される進路

医療施設における高度看護実践者、看護管理者。医療施設の中でも地域連携部門や看護相談室など地域に貢献できる部署または、看護専門外来など。訪問看護ステーションや療養型病床における高度看護実践者。大学などにおける教育・研究者。博士後期課程への進学など。

注：網掛けの科目は専門看護師（CNS）教育課程として認定を受けている科目（うち※1は共通科目A、※2は共通科目B）

## 実践看護学分野 精神看護学領域 精神看護学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2		△			
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2	△				
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2	△				
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2		△			
看護専門職教育特論	2					
継続教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2		△			
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	6	4	0	0	
(専門科目)						8単位以上
精神看護学特論A	2	○				
精神看護学特論B	2					
精神看護学特論C	2		○			
精神看護学特論D	2		○			
慢性期精神看護学特論	1					
精神看護学演習A	2	○	○			
精神看護学演習B	2					
慢性期精神看護学演習	1					
(研究)						
特別研究	8	○	○	○	○	8単位
専門科目 計	16	2	6	0	8	
合計	30	10	12	0	8	30単位以上

◎:必修科目 ○:選択必修科目 △:選択科目

### 期待される能力

各発達段階、生活の場におけるメンタルヘルスの問題について広範な知識を有し、精神的健康の程度に応じた対策を立てることができる。また、精神保健福祉に関連する場や病院、あるいは地域社会のいずれかにおいて、常に現状を刷新する視点を持ちながら、質の高いケアを実践できる。それらを行うにあたって、対象の主観的体験を理解し、自己の内面を見つめることができる。

### 期待される進路

医療施設や地域の精神保健福祉関連施設の精神看護のリーダー、ケア開発を担う研究者、地域、学校、企業等で、メンタルヘルスケアの実践者、大学等での教育・研究者

## 実践看護学分野 精神看護学領域 精神看護学（専門看護師コース）履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
健康福祉政策特論（※1）	2		○			
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2					
コミュニケーション特論	2	△				
連携プロジェクト演習	2					
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0	14単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論（※1）	2	◎				
看護研究法特論（※1）	2	◎				
看護倫理学特論（※1）	2					
看護管理学特論（※1）	2	○				
看護コンサルテーション特論（※1）	2		○			
継続教育特論（※1）	2		○			
フィジカルアセスメント論（※2）	2	○	○			
病態生理学特論（※2）	2	○				
臨床薬理学特論（※2）	2		○			
臨床哲学特論	2					
看護専門職教育特論	2					
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
専門基礎科目 計	16	8	8	0	0	22単位以上
(専門科目)						
精神看護学特論A	2	○				
精神看護学特論B	2		○			
精神看護学特論C	2		○			
精神看護学特論D	2		○			
慢性期精神看護学特論	1			○		
精神看護学演習A	2	○	○			
精神看護学演習B	2			○	○	
慢性期精神看護学演習	1				○	
(実習)						
高度精神看護学実習Ⅰ	2		○			
高度精神看護学実習Ⅱ	2		○			
高度精神看護学実習Ⅲ	4			○	○	
高度精神看護学実習Ⅳ	2			○	○	
(研究)						
課題研究	4	○	○	○	○	4単位
専門科目 計	28	2	12	1	13	
合計	48	12	22	1	13	46単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

急性期精神看護において、物理的および心理的に安全で、休息できる環境を提供し、事故を防止する。それとともに、速やかに主体性を回復できるように支援する。また、家族への支援および家族との連携、職場、地域などの生活基盤の維持にも取り組む。そして、保健福祉分野の職種とチーム連携して効果を上げることができる。

### 期待される進路

スーパー救急を含む精神科急性期の高度ケア実践者、ケア方法の開発者、医療施設における精神看護領域の看護管理者、大学等の教育・研究者など

注：網掛けの科目は専門看護師（CNS）教育課程として認定を受けている科目（うち※1は共通科目A、※2は共通科目B）

## 実践看護学分野 看護技術学領域 看護技術学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2		△			
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2	△	△			
研究科連携科目 計	4	0	4	0	0	
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2	△				
看護管理学特論	2					
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2	△				
継続教育特論	2		△			
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	8	2	0	0	
(専門科目)						8単位以上
看護技術学特論Ⅰ	2	○				
看護技術学特論Ⅱ	2		○			
看護技術学演習Ⅰ	2	○	○			
看護技術学演習Ⅱ	2			○	○	
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	4	0	10	
合計	30	10	10	0	10	30単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

看護技術教育・研究の実践者として看護技術を検証、開発、教授、評価する能力を養うことが期待される。

### 期待される進路

看護職を養成するあらゆる教育施設における教育者、臨地における教育担当・高度看護実践者、看護技術や看護・介護製品の開発に携わる研究者、博士後期課程進学者など

## 看護マネジメント学分野 看護教育・管理学領域 看護教育学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件
		1年		2年		
		前期	後期	前期	後期	
(研究科連携科目)						4単位以上
国際関係特論	2					
少子高齢社会特論	2					
健康福祉政策特論	2					
地域経済政策特論	2					
ヒューマニティ特論	2		△			
コミュニケーション特論	2					
連携プロジェクト演習	2	△	△			
研究科連携科目 計	4	0	4	0	0	2単位以上
(専門基礎科目)						
看護理論特論	2	◎				
看護研究法特論	2	◎				
看護倫理学特論	2					
看護管理学特論	2	△				
臨床哲学特論	2					
看護コンサルテーション特論	2					
看護専門職教育特論	2	△				
継続教育特論	2		△			
寒冷地生活支援看護学特論	2					
家族看護学特論	2					
フィジカルアセスメント論	2					
病態生理学特論	2					
臨床薬理学特論	2					
専門基礎科目 計	10	8	2	0	0	8単位以上
(専門科目)						
看護教育・看護マネジメント学特論	2	○				
看護教育・看護マネジメント学演習	2	○	○			
看護教育学特論	2		○			
看護教育学演習	2			○	○	
看護マネジメント学特論	2					
看護マネジメント学演習	2					
(研究)						8単位
特別研究	8	○	○	○	○	
専門科目 計	16	2	4	0	10	
合計	30	10	10	0	10	30単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

看護基礎教育、継続教育を展開するための基礎的知識、技術に加え、看護実践における患者教育など様々な状況下において教育的機能を発揮するための知識・技術・態度を持つ。また、実践上の問題解決や看護教育学の発展に必要な研究課題を追求し、研究を継続的に実施する能力を備える。

### 期待される進路

看護基礎教育課程教員、病院、保健所等の看護継続教育担当者、看護協会等専門職能団体の継続教育プログラム立案者、高度な教育的能力を持つ看護実践者、看護基礎教育課程開設準備担当者

## 看護マネジメント学分野 看護教育・管理学領域 看護管理学 履修例

履修科目	単位	履修年次・単位数				修了要件	
		1年		2年			
		前期	後期	前期	後期		
(研究科連携科目)							
国際関係特論	2	△					4単位以上
少子高齢社会特論	2						
健康福祉政策特論	2		△				
地域経済政策特論	2						
ヒューマニティ特論	2						
コミュニケーション特論	2						
連携プロジェクト演習	2						
研究科連携科目 計	4	2	2	0	0		
(専門基礎科目)							2単位以上
看護理論特論	2	◎					
看護研究法特論	2	◎					
看護倫理学特論	2						
看護管理学特論	2	△					
臨床哲学特論	2						
看護コンサルテーション特論	2						
看護専門職教育特論	2	△					
継続教育特論	2		△				
寒冷地生活支援看護学特論	2						
家族看護学特論	2						
フィジカルアセスメント論	2						
病態生理学特論	2						
臨床薬理学特論	2						
専門基礎科目 計	10	8	2	0	0		
(専門科目)							8単位以上
看護教育・看護マネジメント学特論	2	○					
看護教育・看護マネジメント学演習	2	○	○				
看護マネジメント学特論	2		○				
看護マネジメント学演習	2			○	○		
看護教育学特論	2						
看護教育学演習	2						
(研究)							8単位
特別研究	8	○	○	○	○		
専門科目 計	16	2	4	0	10		
合計	30	12	8	0	10		30単位以上

◎：必修科目 ○：選択必修科目 △：選択科目

### 期待される能力

ヘルスケア・サービス提供のための看護理念を具現化する組織構築能力、および運営のための管理実践活動への適応力、すなわち問題解決能力（組織アセスメント能力・組織刷新企画及び実践能力・リーダーシップ能力）などを養うとともに看護管理分野の研究能力を身につける。

### 期待される進路

訪問看護ステーション所長、老健・医療施設の看護管理者および副施設長・副院長、保健所の看護管理者、看護基礎教育機関の教育者または研究者

# 3-3 履修登録について

授業科目の履修登録は、単位を修得するために欠かせない手続きであり、履修しようとする授業科目については、必ず履修登録を行わなければなりません。履修登録の手続きを行わないで授業を受けても、単位を修得できません。履修登録の手続きにあたっては、以下の内容をよく読み、ガイダンスや掲示などによる指示に従って、各自が自主的に時間割を作成するなど、計画的に履修することが必要となります。

## (1) 基本事項

- a. 履修科目は、教育課程、Webシラバス、授業時間割などによって適切に決定してください。
- b. 所属年次に配当されている必修科目は、必ず履修登録してください。
- c. 上の年次に配当されている授業科目は履修登録できませんが、下の年次に配当されている授業科目については履修することができます。
- d. 単位を修得した授業科目を再度履修登録することはできません。
- e. 履修登録確認期間終了後に、履修が確定した科目の変更は原則として認めません。
- f. 指定された期間に履修登録を行わなかった場合は、その学期の履修はできないこととなります。
- g. 他研究科の授業科目を履修することも可能ですが、当該授業科目を履修することにより修得した単位は、修了要件単位に含めることはできません。

## (2) 履修登録の方法

履修登録は、前・後期の各「履修登録期間」内に、キャンパスプラン学生用Webサービスの「Web履修申請」メニューから学生本人が行います。

入力方法については、履修する科目をWebシラバスでよく確認のうえ、マニュアル（別紙配布）の操作手順に従って申請入力してください。履修申請情報を入力後、必ず登録確認画面で履修申請する科目の確認をしてください。

また、入力に際しては、各自の時間割を完成させた上で、システムへの入力を始めてください。

なお、履修登録期間中は、申請入力した内容を各自で何度でも修正することができます。

※ 実習科目の履修登録は「集中講義・実習入力」画面からの入力となりますので、履修登録漏れのないようご注意ください。

※ Webシラバスは、キャンパスプラン学生用Webサービスのメインメニューまたは大学ウェブサイトからアクセスできます。

## (3) 看護学部科目の履修について

指導教員が特別研究・課題研究のために必要と認めた学部の授業科目については、在学期間を通して10単位を上限に、当該授業科目の担当教員の下承を得た上で、履修を申請することができます。

### i) 履修手続

看護学部の授業科目を履修しようとするときは、「履修登録期間」内に授業科目履修申請書（別紙1）を桑園事務室まで提出してください。

### ii) 履修登録

看護学研究科教授会にて申請が受理された後、申請者へ通知のうえ、桑園事務室が履修登録を行います。

(別紙1)	年 月 日
<b>授業科目履修申請書</b>	
(あて先)	
看護学研究科長	
研究科名	_____
学籍番号	_____
氏 名	_____
指導教員	_____
氏 名	_____ ㊟
科目担当	_____
教員氏名	_____ ㊟
札幌市立大学大学院学則第28条第1項の規定に基づき、下記のとおり授業科目の履修を申請いたします。	
記	
1	申請授業科目名：
2	特別研究のために申請授業科目の履修が必要な理由：



## 履修登録期間・履修登録確認期間

【前期】4月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
				履修登録期間 4/5(金)～4/12(金)		
8	9	10	11	12	13	14
				履修登録確認期間 4/16(火)～4/19(金)		
15	16	17	18	19	20	21

【後期】10月

月	火	水	木	金	土	日
9/30	10/1	2	3	4	5	6
履修登録期間 9/30(月)～10/7(月)						
7	8	9	10	11	12	13
		履修登録確認期間 10/9(水)～10/15(火)				
14	15	16	17	18	19	20

### ■履修登録期間

前期：2024年 4月 5日(金)～ 4月12日(金) 17:00 \*日時厳守

後期：2024年 9月30日(月)～10月 7日(月) 17:00 \*日時厳守

※登録方法は、「札幌市立大学履修登録マニュアル」を参照すること。

### ■履修登録確認期間

前期：2024年 4月16日(火)～ 4月19日(金) 17:00 \*日時厳守

後期：2024年10月 9日(水)～10月15日(火) 17:00 \*日時厳守

#### 確認すべき点

- ①履修希望科目（特に必修科目・再履修科目）が登録されているか。
- ②履修希望しない科目が登録されていないか。
- ③修了に必要な単位数を修得できるか。

#### 訂正・修正

- ・履修登録確認期間中に各自で行うこと。

※履修登録確定後の修正は一切認められません。

# 4

博士前期課程  
修士論文・  
課題研究論文  
作成要領

# 4

## 修士論文・課題研究論文作成要領

### 1) 修士論文・課題研究論文申請

#### (1) 論文審査の申請について

- ・提出書類 論文審査申請書 [様式1] 1部
- ・提出期限 ①前期 (9月) 修了 2024年6月6日 (木) 17時まで  
②後期 (3月) 修了 2024年12月3日 (火) 17時まで
- ・提出先 事務局桑園事務室教務係

#### (2) 論文の提出について

- ・提出書類 ①論文 4部  
②論文要旨 [様式2] 4部
- ・提出期限 ①前期 (9月) 修了 2024年7月4日 (木) 17時まで  
②後期 (3月) 修了 2025年1月7日 (火) 17時まで
- ・提出先 事務局桑園事務室教務係

#### (3) 論文審査の実施方法

##### ①審査員

論文審査は3名 (主査1名・副査2名) で構成される審査員により行う。

- ・主査は3名のうち、当該学生の研究指導を担当している主指導教員を除く教員とする。
- ・3名はいずれも博士前期課程研究主指導教員とする。
- ・3名のうち1名は当該学生の研究指導を担当している主指導教員とする。
- ・3親等内の親族及び配偶者ならびに利害関係者は、論文審査会の委員となることができない。

##### ②審査会

論文審査会の開催日時については、主査から当該学生に連絡する。

〈論文審査・最終試験期間〉

前期 (9月) 修了 2024年7月8日 (月) ~7月26日 (金)

後期 (3月) 修了 2025年1月9日 (木) ~1月23日 (木)

##### ③審査方法

- ・論文の審査は、論文の内容、最終試験 (口頭試問) をもとに、博士前期課程論文審査基準 (P51参照) に基づき行う。
- ・審査結果については、主査が審査意見書により、事務局に提出する。事務局は、当該学生に審査意見書を通知する。

〈審査意見書通知期間〉

前期 (9月) 修了 2024年7月29日 (月) ~8月2日 (金)

後期 (3月) 修了 2025年1月24日 (金) ~1月30日 (木)

#### (4) 最終論文の提出について

- ・提出書類 ①学位 (修士) 審査申請書 [様式3] 1部  
②戸籍抄本 1部  
③論文 4部  
④論文要旨 [様式2] 4部
- ・提出期限 ①前期 (9月) 修了 2024年8月27日 (火) 17時まで  
②後期 (3月) 修了 2025年2月17日 (月) 17時まで
- ・提出先 事務局桑園事務室教務係

**注) 提出期限を過ぎた申請については、いかなる理由があろうとも一切受理しない。**

## 2) 博士前期課程論文審査基準

### 【修士論文審査基準】

- (1) 研究の目的、看護学的な意義を既存の研究成果との関連で述べている。
- (2) 研究テーマに関連した国内外の関連文献を十分に検討している。
- (3) 研究方法が明確であり、また、研究目的を達成するために適切である。
- (4) 倫理的配慮が必要な場合、その内容と手続きが示されており、妥当である。
- (5) 研究結果は目的に合致し、明確に示されている。
- (6) 研究目的に沿って、結果を解釈しており、論理的な飛躍がない。
- (7) 研究の限界や今後の展望について考察している。
- (8) 文献を適切に引用している。
- (9) 要旨は、論文の内容を簡潔に表している。

### 【課題研究論文審査基準】

- (1) 研究の目的、課題解決による実践的意義を既存の研究成果や社会背景との関連で述べている。
- (2) 研究方法は、研究目的を達成するために適切である。
- (3) 倫理的配慮が必要な場合、その内容と手続きが示されており、妥当である。
- (4) 研究結果は目的に合致し、明確に示されている。
- (5) 研究目的に沿って、結果を解釈しており、論理的な飛躍がない。
- (6) 研究の限界や実践への活用可能性について考察している。
- (7) 文献を適切に引用している。
- (8) 要旨は、論文の内容を簡潔に表している。

### 【最終試験（口頭試問）】

- ・上記の論文審査基準に該当する内容について研究者自身の理解および説明能力を直接確認することを目的とする。
- ・審査内容は、上記項目に準じ、主査・副査が設定する。

### 3) 作成要領

#### (1) 修士論文・課題研究論文作成様式

- ①用紙サイズ A4判
- ②本文の書き方
  - ・縦置き横書き
  - ・36字×40行
  - ・10.5ポイント
  - ・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

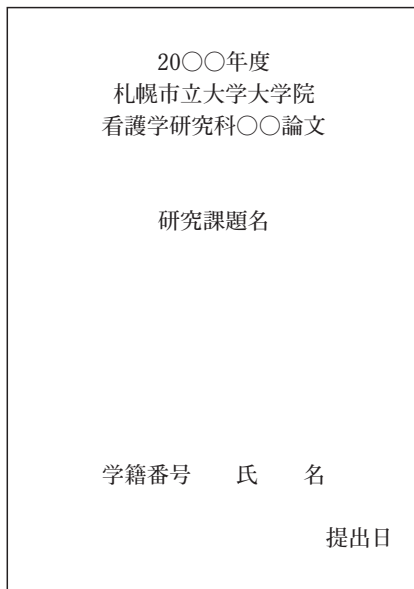


図1 論文の表紙例

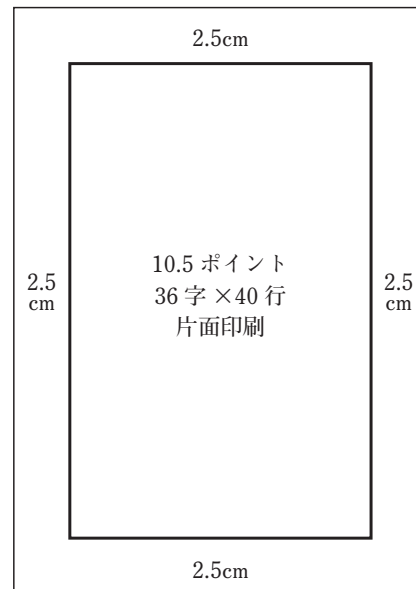


図2 本文の記載例

#### (2) 修士論文・課題研究論文の構成

- ①構成概要
  - 表紙
  - 要旨 (1,200字以内とする) [様式2]
  - 目次
  - 表目次
  - 図目次
  - 本文 (例)
    - 第1章 序論
    - 第2章 文献の検討
    - 第3章 研究方法
    - 第4章 結果
    - 第5章 考察
    - 第6章 結論
  - 引用文献
  - 図・表
  - 資料

## ②頁・見出し

- i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。
- ii. 図・表および資料の頁は、下中央につける。本文と区別するためにi ii iiiとつける。
- iii. 見出しをつける。

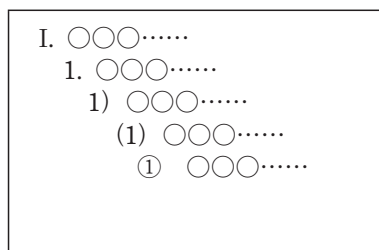


図3 見出しのつけ方

## ③図・表

- i. 図・表は、それぞれに図1、表1などの一連番号を付し、タイトルをつける。  
図表のタイトルは、図の場合は図の下中央、表の場合は表の上中央につける。
- ii. 図・表の番号を本文の該当する箇所に明示する。
- iii. 本文中に挿入する場合は、本文中の適切な位置に本文文字の大きさとバランスを考慮して挿入すること。また、末尾に添付する場合は、図表の大きさによってはA4判1枚に1種類の図表を挿入すること。

## ④資料

研究に用いた調査用紙、説明書、同意書、尺度の利用許諾などは資料として添付すること。

## ⑤文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。詳細については、「APA論文作成マニュアル（最近版）」（医学書院）を参照すること。

- (1) 文献については本文中に、著者名、発行年次を括弧表示する。
- (2) 文献は著者名のアルファベット順に列記する。

### 【雑誌掲載論文】

著者名. (発行年次). 論文の表題. 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.

### 【単行本】

著者名. (発行年次). 書名(版数). 発行地: 出版社名.

著者名. (発行年次). 章もしくは論文の表題. 編者名, 書名(版数)(最初のページ数-最後のページ数). 発行地: 出版社名.

### 【翻訳書】

原著者名. (原書の発行年次) / 訳者名. (翻訳書の発行年次). 翻訳書の書名(版数). 発行地: 出版社名.

## (3) 修士論文・課題研究論文の提出方法

表紙、要旨、目次、本文、引用文献、図・表、資料の順に左側をファイル綴じとし、外側にも図1の表紙を付けること。

様式 1

## 論文審査申請書

年 月 日

札幌市立大学大学院  
看護学研究科長 様

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

指導教員 \_\_\_\_\_ 印

下記のとおり 修士論文 ・ 課題研究論文 の審査を申請いたします。

記

1 研究課題

2 研究デザイン

様式 2

↑ 2.5cm

12ポイント

20〇〇年度

札幌市立大学大学院看護学研究科 修士論文・課題研究論文要旨

研究課題名  
10.5ポイント

札幌市立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士前期課程  
学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

I. はじめに

〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇

II. 研究方法

〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇

字 体 明朝体  
サイズ 10.5ポイント  
一 行 36文字  
行 数 40行  
文字数 1,200字以内

← 2.5cm

2.5cm →

III. 結果

〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇

IV. 考察

〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇

V. 結論

〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇  
〇〇〇〇 ..... 〇〇〇〇

↑ 2.5cm



## 学位(修士)審査申請書

年 月 日

札幌市立大学長 様

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

指導教員 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規則第 11 条第 2 項の規定に基づき、下記書類を添えて、修士(看護学)の学位を申請いたします。

### 記

#### 1 研究課題

#### 2 提出書類

- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| (1) 修士論文 (又は課題研究論文)     | 4 部 |
| (2) 修士論文要旨 (又は課題研究論文要旨) | 4 部 |
| (3) 戸籍抄本                | 1 部 |



札幌市立大学大学院看護学研究科  
GRADUATE SCHOOL OF NURSING  
SAPPORO CITY UNIVERSITY